

受講者募集要項

日本語教育と社会のインタラクション

概要：地域社会における外国ルーツの住民とのコミュニケーション手段として「やさしい日本語」が普及したり、日本語教育の推進に関する法律が施行されたりと、日本語教育への注目が高まっています。今回の公開講座では、日本語教育と社会という観点から、これまで日本国内で行われてきた日本語教育の展開をふりかえるとともに、未来を担う子どもたちに対する言語教育について検討したいと思います。

日程 令和5年10月14日(土)

13:10~13:20 開講式

13:20~14:50 第1回

「戦後日本国内の日本語教育の展開 —日本語教育に求められたのは何か」

川上 尚恵 (神戸大学 大学教育推進機構グローバル教育センター/大学院国際文化学研究科 講師)

講義内容：日本語を母語としない人を学習者とする日本語教育は、その時々日本と海外の国・地域との関係性に大きく影響を受ける。そのような関係性において、日本国内の日本語教育には何が求められ、どう展開してきたのか。戦後から1980年代までの時期を中心とし、「戦後賠償」「技術援助」「国際化」などの名のもとに、日本語教育がどのような学習者を対象とし、政策や教育実践を展開してきたのかを議論し、日本語教育の実践と社会との関わりについて考えたい。

15:10~16:40 第2回

「日本語指導が必要な子どもたちへの言語教育」

齊藤 美穂 (神戸大学 大学教育推進機構グローバル教育センター/大学院国際文化学研究科 准教授)

講義内容：言語能力は認知的な活動を行う基盤となるものである。第二言語習得研究が進む中、言語形成期の途中で異なる言語コミュニティへの移動を余儀なくされた子どもたちは、移動先の言語はもちろん、母語の能力の発達でさえも妨げられる懸念があると指摘されている。本講義では、第二言語習得研究の知見と、母語能力も含めた子どもたちの言語能力育成のための取り組みを紹介しながら、よりよい日本語指導のあり方を考えたい。

受講対象者 一般社会人、学生（中学生以上）

募集人数 200名（先着順受付）

講習料 無料

申込方法 申込書（裏面）に必要事項を記入して、下記までFAX、郵送またはメール添付にてお申し込み下さい。研究科ホームページ（<http://web.cla.kobe-u.ac.jp/>）からもダウンロードできます。

※ご受講いただけない場合のみ連絡しますので、連絡がない場合は、直接会場にお越しください。

会場 国際文化学研究科 B棟110教室（1階）

阪急六甲駅、JR六甲道駅、阪神御影駅より、神戸市バス16系統「六甲ケーブル下」行きに乗車、「神大国際文化学研究科前」下車